

令和7年度 獨協医科大学大学院医学研究科入学者選抜試験（2次募集）
専攻科目試験 皮膚科学

・意図

本設問の意図は、受験者が皮膚科領域における最新の治療パラダイムを正確に把握し、臨床現場の課題を研究課題へと昇華させる素養があるかを問うことにある。現在、アトピー性皮膚炎や乾癬などの炎症性疾患、および悪性黒色腫の治療は、分子生物学的理解の深化に伴うバイオ製剤や分子標的薬の登場により劇的な進化を遂げている。臨床医が大学院で研究に従事する際、単なる基礎研究に終始するのではなく、最新の標準治療を理解した上で「なぜこの症例には効果が薄いのか」「副作用の機序は何か」といった「Bedside to Bench」の視点を持つことが不可欠である。本三疾患は、その分子病態が詳細に解明されつつある皮膚科の代表的疾患であり、これらの治療法に関する知識を問うことで、臨床上の疑問(Clinical Question)を科学的な研究テーマへと繋げるための論理的思考力と、専門医としての基礎学力を評価する。

・解答

[設問1]

ガイドラインのアルゴリズムを参照にすること。そのうえで、薬物療法、スキンケア、増悪因子対策の3本柱を念頭に治療を進めていく。治療薬の進歩は著しく、知識のupdateに努める必要がある。

外用療法:

ステロイド外用薬、タクロリムス軟膏、PDE4阻害薬、JAK阻害薬、タピナロフ。

全身療法:

生物学的製剤…抗IL-4/13受容体抗体、抗IL-13抗体、抗IL-31抗体。

経口JAK阻害薬…3種類ある。

紫外線療法、古典的免疫抑制剤の使い方についても習熟する。

スキンケア:

保湿剤による皮膚バリア機能の維持・改善。

悪化因子の対策…抗原回避や環境整備。

[設問2]

全身性の炎症反応として乾癬、という考え方が主流になりつつあることを念頭に、「乾癬のピラミッド治療計画」を参考にして治療法を検討していく。

外用療法:

ステロイドと活性型ビタミンD3外用薬(配合剤含む)、タピナロフ。

紫外線療法:

ナローバンドUVB、エキシマライトなど。

内服療法(免疫抑制剤):

PDE4阻害薬、レチノイド、シクロスポリン、MTX、JAK阻害薬。

生物学的製剤:

抗 TNF- α 、抗 IL-17(A, AF, 受容体)、抗 IL-23(p19)抗体製剤。

合併症管理:

乾癬性関節炎(PsA)の早期発見と介入。

[設問3]

ICI が使用されるようになって、大きく変わってきた悪性黒色腫の治療法について、よく理解しておく。

外科的切除:

早期例では広汎切除、センチネルリンパ節生検による病期診断。

免疫チェックポイント阻害薬(ICI):

抗 PD-1/PD-L1 抗体、抗 CTLA-4 抗体の単剤または、他製剤との併用療法。

分子標的薬:

BRAF/MEK 阻害薬(BRAF 遺伝子変異陽性例)。

術後補助療法(アドジュバント):

再発リスク低減を目的とした ICI や分子標的薬の投与。

放射線・化学療法:

姑息的治療としての実施(現在は補助的役割が主)。

irAE についてもしっかりと管理できるように知識を update させること。